

で、どぶに捨てるわけにはいかない。わが国では大雪山に行ってワクチンバイアルを一本づつ開けて中身を棄てる。Pandemrixは、2.5mLの抗原のバイアルと2.5mLのoil in water アジュバント（動物を不妊にする作用があるという）のバイアルの分かれているようである。ノバルティスファーマ（Focetria H1N1）のワクチンも日本にくるのは5mLバイアルであるという情報がある。処分は大変な手間である。それも膨大な数であれば尚更のこと。それでも面子とワクチンが可哀想と救いたい、あるいは少しでもお金を回収したいと転売して、人類に接種して、膨大な数の犠牲者を出したら救われない。角を矯めて牛を殺すなけれ。人の命は地球より重い。

注8 正しくは國破れて山河あり、原典は春望 杜甫 「國破れて 山河あり 城春にして 草木深しひに感じては 花にも涙をそぞぎ別れを恨んでは 鳥にも心を驚かす 以下省略」

注9 日本船舶振興会初代会長笹川良一氏の言葉。 笹川氏の胸像はジュネーブWHO本部正面ロビーで見た。

注10 スクワレン（ノバルティスファーマのMF-59、GSKのAS04に含まれる）は1998年にペット用のワクチンのアジュバント-9を人間用に開発したものであり、アジュバント-9を接種された動物は不妊症になるという。2009年12月22日、わが国でGSKのヒトパピローマウイルスワクチン（商品名 サーバリックス）が発売された。サーバリックスに添加されているアジュバントはAS04である。 AS04アジュバント複合体はグラム陰性菌 *Salmonella Minnesota* R595株のリボ多糖の非毒性型誘導体である3-脱アシル化-4'-モノホスホリルリピッドA(MPL)³⁴⁾と水酸化アルミニウムより成ると添付文書に書かれている。さて、リピッドは油／脂肪酸である。そして、MPLこそFDA、NIH、米国防省が1998年に至急の手順で臨床試験を行った新遺伝子組み換え Anthrax vaccineに使用された2種類のスクワレンをベースとするアジュバントの1つである³³⁾。（もう1つはカイロン社のMF59—これはノバルティスファーマのA(H1N1) 2009<単価ワクチン>に添加されている）³⁴⁾ その他に、MPL(AS04)はスクワレンがベースであるという情報も複数インターネットに掲示されている¹¹³⁻¹¹⁶⁾。

MPLはリポ蛋白質であり、Toll Like Receptors のリガンドである。すなわち、MPLはTRL4と結合して樹状細胞を活性化することにより自然免疫を賦活する^{117,118)}。

g. GSKとノバルティスファーマに正々堂々と契約解除交渉をするべきである。

(1) 日本はカヤの外 ジャパンパッキングであった

全欧洲を巻き込んだ新型登場宣言にまつわる大スキャンダル事件であるが、わが日本はカヤの外であった。バナナ（日本人は外は黄色く中は白い）は欧米諸国の転売合戦に加わるには出足が遅すぎ、バナナの叩き売りはすべきではない。発展途上国民の健康を損なうことはすべきではない。

(2) 「このまま何もしない」—小説日本沈没の最後に出てくる言葉— であってはならない虎穴に入らずんば虎児を得ず

わが国の海外ワクチン購入契約総額は半端ではない。ヨーロッパで最も被害額の大きいフランス A(H1N1)2009ワクチン購入額とちょうど同額である。わが国は2010年1月15日GSKとノバルティスファーマに対して売買契約部分解除の交渉を水面下で開始したと報道された。GSKとの契約には破棄事項はない。しかし、常識的にはまともな商品の売買契約について破棄事項の有無が問題になるのであろう。数年前より、エレベーターやガス湯沸かし器で死亡事故が発生して問題になった。ヨーロッパ各国で多数の被害者が続出しているワクチンは極めつきの欠陥商品である。加えて海外大手製薬会社が利益を得ることを目的として、WHOにパンデミック宣言を出すよう圧力をかけたことが歐州会議という国際的な公的な場で暴露された。

今、フランス、ドイツ、英国その他のヨーロッパ諸国は、GSK、ノバルティスファーマ、バクスターと正面から交渉し、既に契約のもとワクチンが納入されつつある段階で、交渉した。既に納入された分の未払い分についての解約まで成功した国もあり、少なくとも未納入分については完全に解約している。わが国はまだパブリックコメント（筆者も提出し